

28年8月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成28年8月1日～ 28年8月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
8月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/8月	9月	10月
入荷動向	国産材	14.3	21.4	0.0
	外材	8.3	0.0	0.0
在庫動向	国産材	△ 8.3	△ 25.0	△ 8.3
	外材	△ 25.0	△ 33.3	△ 8.3

・国産材ラミナの入荷は8月、9月の増加が10月は横ばい。外材は8月のやや増加が、9月、10月は横ばい。

・国産材及び外材ラミナの在庫は3ヵ月連続して減少。

(2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	28/8月	9月	10月
国産材	7.1	7.1	0.0
欧州材	0.0	0.0	0.0
その他	0.0	0.0	0.0

・国産材ラミナの入荷価格は8月、9月のやや強含みが10月は横ばいに。欧州材及びその他は3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き)

・スギは製品の引合いが強いため、翌月・翌々月までの入荷見通しは横ばい。カラマツは、北海道は徐々に丸太不足が解消されラミナも順調に入荷、岩手県は不足感が続いており集荷も苦戦。製品の引合いが強いためスギラミナは在庫量が増えない。カラマツは北海道が順調になったことで在庫量はやや増加。

・ハウスメーカーの着工数も増えており、プレカット工場の稼働率も上昇しているため、国産材、外材共にラミナの動きは多くなっている。米ヒバは北米産地の原木高の影響強し。急激に在庫は減っている。調達に苦労している。

・国産材は今月想定より出が悪い(国有林事業の影響)。在庫は、9月は国産・外材共にタイトになりそうな予想。

(ラミナ価格動向)

・スギ・カラマツ共に横ばい。

・引き合いが高まると価格は上昇する傾向にあるが、ここで安定した価格と供給量を維持できることが、国産材シェア比率拡大につながるため努力して安定化させている。

・円高の推移により仕入価格は安定領域にある。

28年8月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/8月	9月	10月
生産動向	国産材	31.3	18.8	12.5
	WW集成管柱	△ 12.5	△ 25.0	12.5
	RW集成平角	10.0	10.0	20.0
	米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	31.3	18.8	18.8
	WW集成管柱	12.5	△ 12.5	12.5
	RW集成平角	20.0	20.0	20.0
	米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—

・国産材及びRW集成平角の生産は3ヵ月連続して増加。WW集成材管柱は8月、9月の減少が、10月は増加に。米マツ集成平角は3ヵ月連続して横ばい。

・国産材、WW集成材管柱及びRW集成平角の出荷は総じて増加傾向。米マツ集成平角は3ヵ月連続して横ばい。

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	28/8月	9月	10月
スギ集成管柱	0.0	20.0	0.0
ヒノキ集成柱	0.0	0.0	0.0
ヒノキ集成土台	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成土台	0.0	0.0	0.0
WW集成管柱	0.0	12.5	0.0
RW集成平角	0.0	0.0	0.0
米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
WW集成平角	—	—	—
米ヒバ土台角	50.0	0.0	0.0
カラマツ集成平角	0.0	0.0	0.0

・構造用集成材の出荷価格は、一部に強含みの品目があるが、総じて横ばい。

モニターからのコメント

(構造用集成材荷動き)

- ・スギ・カラマツ共に生産量増加。7月まで低迷していた市況が8月以降回復傾向のため、生産は横ばいからやや増加を見込む。スギEWの出荷量が増加。カラマツEWも8月よりやや増加。
- ・国産材集成材の荷動きは非常に活発化しており、生産もフル生産へ突入している。米ヒバ集成土台角は先月から増産を余儀なくされている。しばらくは品薄状態が続く見込み。生産に追い付かない状況が出始めており、出荷も増加しているが、フル生産、フル出荷で上限に近づいている。
- ・9月の生産は厳しい。出荷は厳しい予想。

(構造用集成材出荷価格動向)

- ・スギEWは大手ビルダー向けが主となっているため横ばいが続く。他、一般向けの価格は若干値戻しが始まっている。カラマツのラミナ全体が高値安定であるため製品価格も横ばい。輸入材が値下がりしているのに対し、カラマツラミナは一部で値上げ要請であるが、現状では価格転嫁できる状況ではない。
- ・米ヒバは7月以降、KD土台角の値上げを行った。ヒノキの集成柱、土台は引き合いは強まっているが、価格は努力して安定させている。
- ・9月は供給が間に合わず、価格上昇の可能性がある。